

1. 事業の必要性・概要

里地里山は、原始的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、農地、溜池、草原などで構成される地域である。農薬は農地で行われる農業生産活動において使用される資材であるが、生物に活性を有するので、里地里山における自然循環機能や豊かな生物多様性の保全に支障が生じないように使用していくことが重要である。

また、生態系は様々な生物により構成されているが、生物種は地域の気象条件、地形により異なることから、生態系は地域ごとに異なったものとなっている。

このため、生物群集への農薬の影響を評価する手法の開発や、地域固有の生物多様性保全を考慮した農薬の種類を選択や使用方法の選択が出来るようナリスク管理を推進する必要がある。

2. 事業計画（業務内容）

- ・ 諸外国における段階的なリスク評価の仕組みを踏まえ、我が国における農薬の水域生態系への影響評価手法の高度化に向け、統計学的手法等を活用した毒性評価手法や環境中濃度の算定方法を開発する。
- ・ 地域固有の生物多様性保全に資する新たなリスク管理（使用農薬や方法の選択）手法を開発する。

等。

3. 施策の効果

農薬の環境リスク評価・管理の高度化に資するとともに、地域において生物多様性保全を考慮した農薬選択等が可能になることを通じて、地域固有の生物多様性や豊かな生物資源の保全、ひいては、里地里山における動植物を利用した地域作り、地域活性化に資するものである。

農薬環境影響対策費

平成27年度予算(案)額 50百万円(50百万円) 支出予定先 民間団体等

農薬は農地で行われる農業生産活動において使用される資材であるが、生物に活性を有するので、里地里山における自然循環機能や豊かな生物多様性の保全に支障が生じないように使用していくことが重要

農薬の水域生態系への影響評価手法の高度化に向けて

- ・統計学的手法を活用した毒性評価
- ・環境中濃度の算定手法を開発

農薬を使用する場面において

- ・地域固有の生物多様性保全に資する新たなリスク管理(農薬の種類や使用方法の選択が可能な)手法の開発

里地里山の自然循環機能や豊かな生物多様性の保全



地域固有の生物多様性や豊かな生物資源の活用による地域活性化